


第175回 都市懇サロン レポート	低炭素まちづくりに向けて －コンサルタントの役どころを考える－		
講 師	(株)サンワコン 環境共生部 桶谷 治寛さん	開 催 日	平成25年10月22日(火) 18:00~20:00
講 師 プロフィール	1964年：福井県生まれ 1983年：大阪大学環境工学科入学 1987年：大阪大学環境工学科卒業 1987年：大手電気メーカー入社 1992年：(株)サンワコン入社		
お話の概要	<p>1. コンサルタントの原点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者として最も社会に貢献できる職種として、コンサルタントを選択した。 ・大学では環境は建築や土木を導くものとしてあり、環境の中にいる人間は環境に対して、保護はできず、保全しかできないと教わり、今に至る信念となっている。 <p>2. 環境計画から低炭素のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低炭素まちづくりは、社内では環境系の計画郡の中に位置づけられ、環境系の計画では計画策定プロセスには住民参加が図られる。 ・環境系の計画策定で低炭素以前から住民参加を手がけていた。その流れで福井2050が有志で立ち上がり、低炭素に取り組むこととなった。 ・福井2050は環境パートナーシップ会議のテーマの1つで、公開講座において福井版シナリオを作成した。当然、原子力は大きな議論となった。 ・シナリオでは、80%のCO2削減に向けて、個別目標値を議論しながら設定した。 ・住民参加は成果は同じでも、策定プロセスが大事である。専門家から見ると同じレベルの成果だが、受けての住民は違った思いで受け止める。 <p>3. 今後の環境分野における事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採算性が低いことから、省エネ診断サービスなどの事業体のマネジメントを模索している。 		
意見交換 の概要	<p>○住民参加も一過性でなく、持続には制度化・事業化が必要でそのためには世論づくりが必要という関連性を示してはどうか。</p> <p>⇒多数が参加する街は引くのも早いという傾向がある。成果を制度化にするには行政各部署との詰めが重要だと考えている。</p> <p>○低炭素という時に、物づくりである建設業や街の工務店への広がりはないか。</p> <p>⇒省エネなどは自社で抱えている場合もあり、これからである。</p> <p>○国交省の低炭素まちづくりは自治体4件と少ない。普及には何が必要か。</p> <p>⇒区画整理での環境施設を公共施設として整備するなど、事業制度における新たな取り組みが必要だろう</p>		
記録者の ひとこと	<p>コンサルタントとしてだけでなく、市民としても環境に取り組み、地元で活躍されていることに感銘を受けました。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 菊地 建夫》</p>		